

宇宙 100 の謎

鳥居和史¹・早川貴敬^{1,2}・福井康雄¹

〈¹名古屋大学大学院理学研究科 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町〉

〈²名古屋大学大学院情報科学研究科 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町〉

e-mail: torii@phys.nagoya-u.ac.jp

1. 「宇宙 100 の謎」とは？

「宇宙 100 の謎」は、一般の方が抱いている宇宙に関する疑問を広く募集し、それに対し専門家が回答する企画です。募集して回答して終了ではなく、回答を見た人の「じゃあ、これはどうなるの?」「この点がちょっとわからないので、もう少し詳しく説明して欲しい」という声を反映し、それに対してまた回答するという、インタラクティブな形を目指しています。回答者は天文学だけでなく、哲学、文学など、さまざまな分野から参加していただき、より広い視野からの回答を目指しています。また、先生方だけでなく、若い大学院生も積極的に参加しました。

2. 「謎」の募集

プロジェクトは 2006 年の 6 月に始まりました。案内のポスターを全国各地の科学館等に掲示していただき、また講演会などの折にも質問を募集しました。web ページ (<http://www.a.phys.nagoya-u.ac.jp/100nazo/>, 図 1) を用意し、そこから「謎」を応募できるようにもしました。その甲斐あって、葉書による応募が 629 通、メールによる応募が 153 通と、非常に多くの「謎」が寄せられました。これはわれわれにとっても予想をはるかに上回る数字で、集計作業や web の更新が追いつかないといった結果も招いてしまいました。

寄せられた「謎」の中で、一番多かったのは宇宙の果てや、宇宙の終わり、始まり、始まり以前に関するもので、3-4 通に 1 通はこれらに関するものでした。ブラックホール、ダークマターに関



図 1 「宇宙 100 の謎」ホームページ (2008 年 4 月時点のもの)。

する「謎」も定番です。しかし、なかには「宇宙は何色?」「星は☆型ではないの?」といった、われわれ専門家を唖らせる質問もありました。一般の方の宇宙に対する関心がどこにあるのかうかがい知ることができます。

3. 大発表会

2007年4月に、名古屋大学で「宇宙 100 の謎 大発表会」を開催しました。寄せられた「謎」の中から、「星は丸いと聞いたけど本当ですか? ☆型ではないのでしょうか?」「宇宙の果てはいつか見えるのでしょうか? 果てからその外に出られるのでしょうか? 端はどうなっているのでしょうか?」の二つを選び、福井と、杉山 直教授が講演を行いました。パネルディスカッションで



図2 大発表会の様子. 写真中央が福井.

は、情報科学研究科の戸田山和久教授、名古屋市立科学館の野田 学さん、四日市市立博物館の稲垣好孝さんにも加わっていただき、参加者からの質問を元にさまざまな視点から宇宙の「謎」について語っていただきました。さらに20の「謎」についてポスター講演を行い、こちらにもたいへん多くの方に参加いただき、非常に熱気に満ちたものになりました(図2)。もう少し大きな会場を用意してもよかったかもしれません。ポスター講演では大学院生も解説に回り、参加者からの質問を受け、活発なやりとりが行われました。教育の場としても成果があったのではないかと思います。

4. むすびと今後の展望

「宇宙100の謎」プロジェクトは現在も進行中です。寄せられた数々の「謎」の中から100問を厳選し、それに対する回答をまとめ、書籍として刊行する作業を現在行っています*1。寄せられた

「謎」は到底100では収まり切りませんから、web上で残りの「謎」に対する回答を行う、2回目の「大発表会」を行うという構想もあります。この記事をご覧の方の中には、「こういったことができるんじゃないか?」「こういったイベントに発展させるのも面白い」といった考えが浮かんだ方がいらっしゃるかもしれません。そのときは、是非私たちのほうまでご連絡ください。「宇宙100の謎」プロジェクトは、ただ質問と回答に終始するものでなく、さまざまな人々の交流の場に発展させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

人は「宇宙のことがもっと知りたい」のだと思います。これは、専門家もそうでない人も、誰もがもつ欲求なのではないでしょうか。しかし、研究が進み宇宙の謎が解明されるにつれ、専門家でない人たちにとっては敷居が高くなっていくのもまた事実です。このジレンマを解決するためにはどうしたらよいのか。その解決策の一つとして、「宇宙100の謎」プロジェクトが皆様のお役に立てば幸いです。

謝辞

「宇宙100の謎」は、なんてん電波天文台(代表福井康雄)主催、名古屋大学理学研究科天体物理学研究室、名古屋大学星の会、社会技術研究開発事業「基礎科学に対する市民的パトロネージの形成」(研究代表者 戸田山和久)の共催、協力で推進しています。この場を借りて、協力いただいた方々にお礼を申し上げます。

*1「宇宙100の謎」は、東京新聞社より2008年秋刊行予定です。